

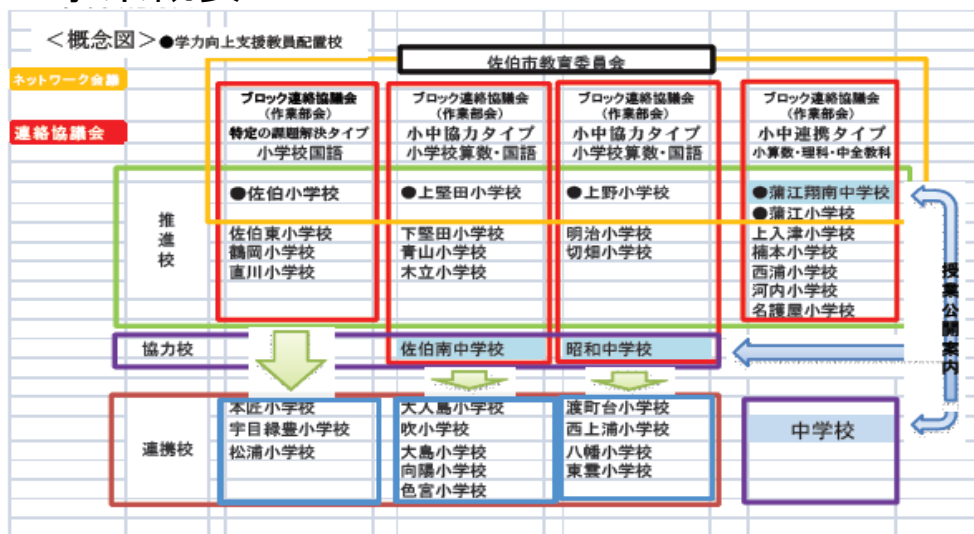
平成24年度佐伯市学力向上実践研究事業報告書(大分県市町村学力向上戦略支援事業の活用)

佐伯市では、H24年度に大分県の市町村学力向上戦略支援事業により学力向上支援教員(小4名、中1名)の配置を受け、4つのブロックを研究推進地域とし、学力向上支援教員が複数の学校の研究主任と連携しながら学力向上に取り組む実践的研究(佐伯市学力向上実践研究事業)を進めてきました。

学力向上支援教員は自らT1やT2として授業改善の取組を公開し、「わかる授業(単元の学習目標に基づいた、その一時間の目標を達成する授業)」づくりをリードするだけでなく、各ブロックの推進校を巡回し、授業を参観するとともに、研究主任と協議したり、校内研修に参加したりとブロックでの学力向上アドバイザーとして活動してきました。

また、各ブロックでは、「わかる授業」の構築に向け、校内で授業を見合うだけでなく、学校間でも授業公開を行い、児童生徒の学びを伸ばすための取り組みをしてきました。その様子等を報告します。

事業概要



○4つの推進ブロックを設定

- ・佐伯小ブロック、上堅田小ブロック、上野小ブロック(各1名配置)
- ・蒲江小+蒲江翔南中学校ブロック(小中各1名配置)
- ・学力向上支援教員がブロック内の学校間を結び、複数の学校が協力して、学力向上に係る取組を推進 → 面としての広がり

○学力向上支援教員の活動例

- ・配置校や推進校における「わかる授業」づくり等に関する情報発信
- ・各推進校を訪問し、取組の方向性や実践について協議や助言
- ・各ブロックでの研究主任等作業部会を開催し、協議や助言

授業公開をする学力向上支援教員(H24.6.6)



自校の取組について説明する
学力向上支援教員(H25.2.5)

取組実績

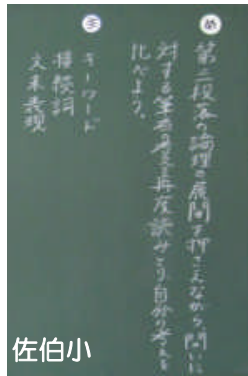
- 5人の学力向上支援教員による推進校訪問(3/15現在)
4月~3月 319回
- 4ブロックでの学校間授業公開
5月~3月 99回 参加教員数のべ980人以上
- 4地域での研究主任等協議や全体での連絡協議会
4月~3月 40回

「単元の学習目標に基づいた、その一時間の目標を達成する授業」のひろがり(小学校)

子どもたちが見通しと意欲を持って参画できる授業の創造

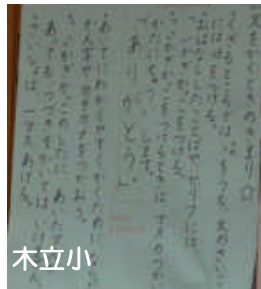
単元の構想を児童と共有し、単元の課題解決の見通しをもたせた例

本時の課題を解決する視点を「手立て」として示した例



佐伯小

低学年からの学習環境の整備、学びの足跡



木立小

学んだことについて整理し、ふりかえりを書き込んだノート



佐伯小

○事前

児童の課題分析、授業規律の確立等

○単元を通して課題を解決していく構想

出会う場面: 単元の学習課題の確認...「単元計画(課題+流れ)」の確認

毎時間の課題の明確化...課題解決に向けた一時間ごとの学習課題

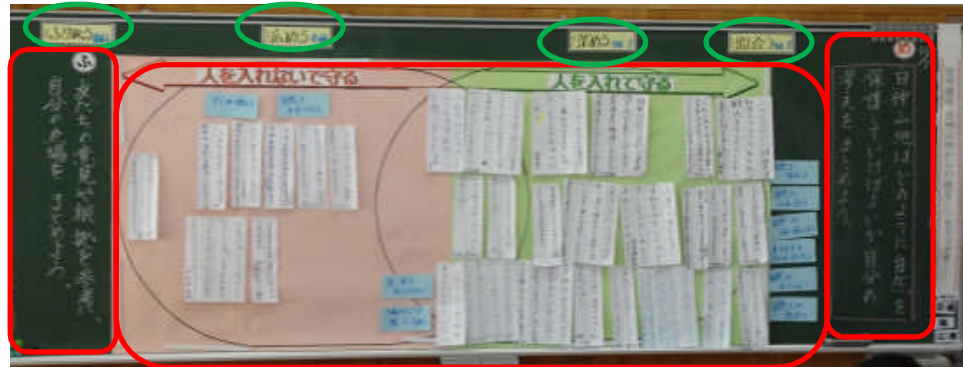
自分の考えをもたせる...解決に向けた手立てや視点等を具体化

考えを交流し、比較検討...異なる意見や考え、視点からの再確認、理解

まとめ・振り返り...何をどうやって学んだかの自分の中への位置付け

生かす場面: 積み上げてきた学習内容を生かして自分で課題解決に向けた展開

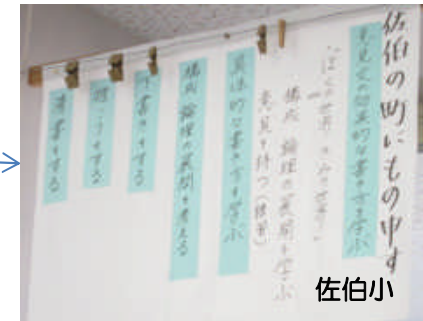
一時間の流れの見通しが示され、授業で考え、交流し、整理したこと
の道筋が分かる板書(板書の構造化)



▶ノート指導...黒板と連動し、授業の足跡を残す。(制作物や作品とした時にはポートフォリオとして残ることも考える)

○事後

児童の理解度を評価し、家庭学習や補充学習等で定着を図る



佐伯小

考えを整理し、交流するツールとして付せんを活用した例



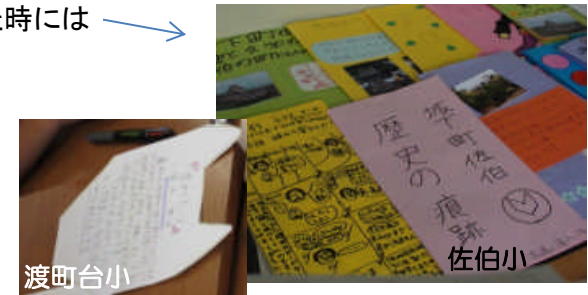
青山小

考えを伝え合う児童



上堅田小

授業の足跡として作品を保存した例



渡町台小

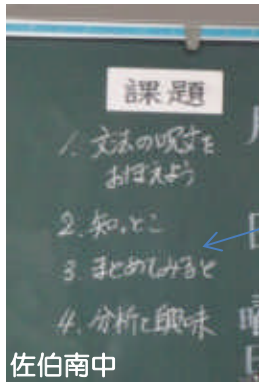
佐伯小

「単元の学習目標に基づいた、その一時間の目標を達成する授業」のひろがり(中学校)

子どもたちが見通しと意欲を持って参画できる授業の創造

単元の構想を生徒と共有し、単元の課題解決の見通しをもたせた例
佐伯城南中

本時の流れを授業の最初に提示し、見通しを持たせた例



佐伯南中

○事前

生徒の課題分析、授業規律の確立等

○単元を通して課題を解決していく構想

出会う場面: 単元の学習課題の確認...「単元計画(課題+流れ)」の確認

毎時間の課題の明確化...課題解決に向けた一時間ごとの学習課題

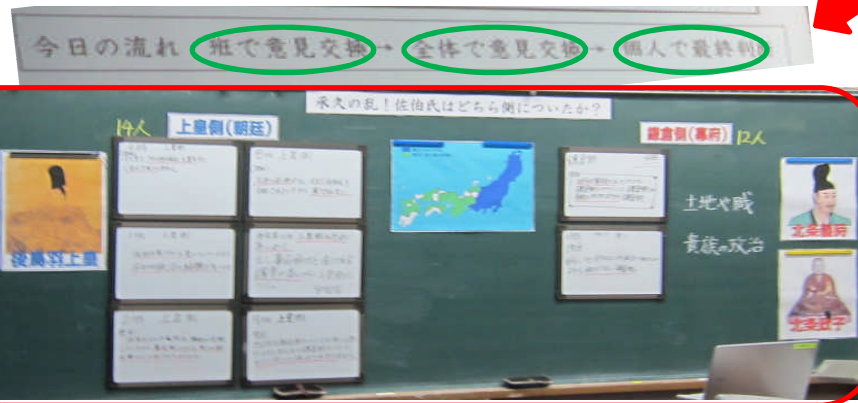
自分の考えをもたせる...解決に向けた手立てや視点等を具体化

考えを交流し、比較検討...異なる意見や考え、視点からの再確認、理解

まとめ・振り返り...何をどうやって学んだかの自分の中への位置付け

生かす場面: 積み上げてきた学習内容を生かして自分で課題解決に向けた展開

一時間の流れの見通しが示され、授業で考え、交流し、整理したこと
の道筋が分かる板書(板書の構造化)



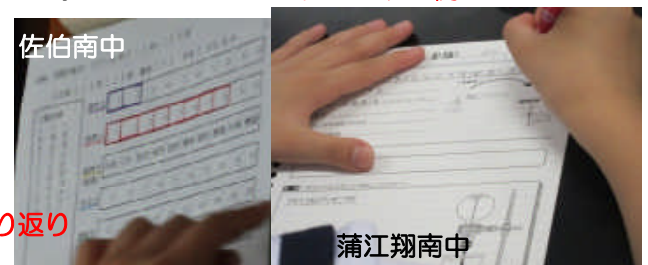
班で考えをまとめる
ホワイトボードとICTを活用した例



考えを伝え合う生徒



基本事項とは別に「なぜ」を考えて記述する部分を設けている
ワークシートの例



授業にのぞむ姿を自己で振り返り
自己管理能力を高める取組例

演示にICTを活用した例



蒲江翔南中

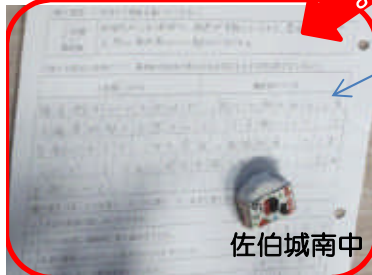
考えを整理し、自分の最終判断を記入する欄や振り返りを書き込む欄を設け、ファイリングする例

まとめ

➤ノート指導...黒板と連動し、授業の足跡を残す。(制作物や作品とした時にはポートフォリオとして残ることも考える)

○事後

生徒の理解度を評価し、家庭学習や補充学習等で定着を図る



佐伯城南中

蒲江翔南中

平成24年度の取組のまとめ

○推進ブロックにみられる取組の成果

学校では

- 子どもに「視点」「手立て」「見通し」を持たせ、説明させることを繰り返す中、思考力・判断力・表現力の基礎を培うことが出来た。
- 他校の授業、研究を見ることによって日頃の授業の進め方や言語活動の指導について研修を深めることができた。
- 全員による提案授業と学年間での互見授業が行われ、教職員のスキルアップにつながった。
- 教職員間で宿題のあり方について話し合いをもち、宿題の内容について共通理解して取組むことができた。
- ブロックで作成した学習規律をもとに取組み、静かに読書したり、友達の意見を最後まで聞いたり、学習のルールを意識した行動が見られるようになった。

児童生徒は(小学校高学年と中学生へのアンケートによる)

- 「学校の授業はよくわかりますか」との質問に肯定的回答をした児童は90%を超え、生徒は80%を超えた。
- 「授業の中で、何をどのように学ぶか、学んだことは何かがわかりますか」との質問に肯定的回答をした児童は90%を超え、生徒は70%を超えた。
- 「家で何を勉強したらいいかわかりますか」との質問に肯定的回答をした児童及び生徒は80%を超えた。

○今後の課題、平成25年度に向けて

- ◆一時間の授業の中で、視点や手立てを示すことで、児童生徒が見通しをもって授業にのぞみ、自分の考えを持つことが出来ている。また、「伝えあう」場を取り入れることで、考えを説明することや比較検討することができており、思考力、判断力、表現力の基礎を培うことにつながっている。
- ◆本年度は単元の中に学んだことの活用を図る場を設定する等の単元構想に基づいた授業を行ってきた中で、課題解決に向けて、考え、判断し、表現する児童生徒の姿を多く見ることが出来た。次年度も単元構想に基づくわかる授業づくりの取組を進め、思考力・判断力・表現力を磨いていくことが求められるとともに、教科等を横断した学習や総合的な学習、探究的な学習へと研究を進めることが考えられる。